

## 第18回

# 金融教育に関する実践報告コンクール表彰式

2021年12月27日、金融広報中央委員会は「第18回 金融教育に関する実践報告コンクール」の表彰式を都内会場で開催しました。このコンクールは、毎年、全国の教育関係者の方々から金融教育に関する実践報告や研究結果、提言などを募集し、優秀な作品を表彰する催しです。本レポートでは、受賞作品の要旨および実践した金融教育のきっかけや成果、今後の抱負などをご紹介します。

※ここでご紹介する特賞・優秀賞の各受賞作品の全文は、「知るぽるとホームページ」でご覧いただけます。  
[https://www.shiruporuto.jp/education/contest/container/concours\\_kyoin/2021/](https://www.shiruporuto.jp/education/contest/container/concours_kyoin/2021/)



### 審査員代表による講評



**大杉 昭英氏**  
早稲田大学  
非常勤講師

今回のコンクールでは、2022年4月に成年年齢が18歳に引き下げられることや、新学習指導要領で金融教育が強化されることを踏まえて、新たなカリキュラム作成等に取り組む意欲的な作品や、離島・海外といった特別な環境で金融教育を試行する独創的な作品が目立ちました。特賞、優秀賞を受賞された皆さまの優れた作品が広く取り上げられ、金融教育への機運がより一層高まることを願っています。

### 開催挨拶



**武井 敏一**  
金融広報中央委員会  
会長

コンクールは、入賞作品を広くご紹介することで、学校における金融教育の必要性を改めてご認識いただき、今後のご指導の参考資料としてご活用いただくことを目的に開催しております。

今回の入賞作品は、コロナ禍での新たな生活様式や日本経済の将来展望を踏まえた実践がみられ、金融教育が、子どもたちの生きる力を養うために有効な手段であることを改めて実感した次第です。

受賞者の皆さまには、熱心な取組みに感謝を申し上げますとともに、心よりお祝い申し上げます。

### ■コンクールの概要 & 受賞結果

主催	金融広報中央委員会
後援	金融庁、文部科学省、日本銀行
応募資格	幼稚園教諭、小学校・中学校・高等学校・高等専門学校・高等専修学校教員、教員経験者、教職課程在籍または教職を目指す大学生、大学院生、大学教育等研究者 ※共同執筆の場合、1名でも教員が含まれていれば応募可能
今回の受賞結果	特賞：1編（賞状/賞金30万円） 優秀賞：3編（賞状/賞金20万円） 奨励賞：4編（賞状/賞金5万円）

### ■第18回 最終審査員（敬称略）



大杉 昭英 早稲田大学非常勤講師  
 神山 久美 山梨大学大学院教授  
 小関 禮子 帝京大学大学院元教授  
 中村 新造 弁護士  
 向山 行雄 敬愛大学教授・教育学部長  
 星野 真澄 NHK制作局第2制作ユニット  
 社会ジャンル専任部長  
 渡邊 昌一 日本銀行情報サービス局長  
 武井 敏一 金融広報中央委員会会長



高知県  
安岡 知美氏  
高知大学教育学部附属特別支援学校教諭

### 受賞作品

## 知的障害のある生徒の生きる力につながる金融教育を ～特別支援学校高等部家庭科におけるカリキュラムマネジメント～

### 作品概要

筆者は、知的障害のある生徒が、ものの値段の相場を知らず、金銭感覚が育っていないという現状を認識。消費者トラブルとその対処法を一方的に教える現カリキュラムを見直し、公民科的内容を取り入れたお金の授業をシリーズ化して実践した。また、キャッシュフロー表を活用することでライフプランを可視化するなどして、卒業後を見据えた生きる力につながる学びをめざしている。

### お金の使い方に重点を置いた学びを展開

今回の受賞は、特別支援教育においてまだまだ進んでいない金融教育の取組みのまさにスタートと考え、これからも研さんを積んでいきたいと思っています。

知的障害のある生徒が学ぶ当校で、私は高等部の家庭科を担当しています。授業の中で、「野菜の値段」や「企業の初任給」など、一般的な相場を理解していないことが分かりました。このように金銭感覚が十分育っていない状態で、「一人暮らしをしたい」など、将来の夢を抱いて就労していきます。そうした夢がかなえ、豊かで生きがいのある人生を送るための知識を生徒たちに学んでもらうために、今回の実践教育に取り組みしました。

私は、「お金の使い方」の学習に力を注ぎました。これまでの特別支援教育では必ずしも十分教えてこなかったことです。支援度の高い生徒には金銭感覚を身に付けさせるため、買い物学習を

繰り返し、1人でおつかいができることを目標にしました。支援度の低い生徒には、消費者トラブルによる被害とその対処法を教えるだけの消費者教育を見直し、税金や保険など公民科的な内容を取り入れた授業を展開しました。働いて税金を払うことで社会の役に立っていることを伝えると、「税金を納める大人になりました」と話す生徒もいました。自己肯定感が低くなりがちな特別支援学校の生徒たちにとって、自分も社会の役に立っているという喜びが勤労意欲の高まりにつながったように思います。

### 卒業後の生活も見据えた金融教育を行う必要性

また、卒業後の人生のためのカリキュラムとして、生徒一人ひとりにキャッシュフロー表を活用し、生徒のライフプランを可視化しました。それをもとに、貯金の目的と目標額を書いた夢貯金封筒を卒業時に作らせ、「給料日に真っ先にこれを実行することが夢をかなえる秘訣」と伝えました。この授業で、親の

お金で遊んでいた高額な課金型ゲームをやめるなど、行動が大きく変わるきっかけになった生徒もいました。

### 他教科との協働と家庭との連携が不可欠

家庭科で金融教育に取り組んできましたが、ライフスキルに係ることが多く、教えることは膨大です。今後は、他教科と協働して取り組んでいければと考えています。また、お金の教育に不可欠な家庭との連携を強化していきたいと思えます。そして私自身が時代に遅れることなくアンテナを張り、今後とも多くの仲間を支えられながら金融教育を進めてまいります。

### ●審査員の講評

「卒業後の生活まで見据えて支出能力を育成しようとしている」、「丁寧な教育が行われ、ノウハウや仕組みに應用が利く」、「生徒の状況が違う中で工夫している」として高い評価を集め、特賞を受賞されました。



埼玉県  
小谷 勇人氏  
春日部市立武里中学校教諭

### 受賞作品 他国の経済事情を学ぶことを通して育む起業家精神

### 作品概要

筆者が中国赴任時、青島<sup>チンタウ</sup>日本人学校の中学生に実践した起業家教育を紹介している。現地の日系企業（生徒の父兄の勤め先など）の方へのアンケートを身近な教材として活用し、「経済のグローバル化が進む中で、今後日本はどのような経済成長を遂げていくべきか」を課題にした特設授業を行った。

起業家精神を持った世界で活躍する人材を育成  
海外赴任時に、常に持っていた問題意識から生み

出された論文を評価いただき、ありがたく感じています。

起業家教育の視点では、日本人と比べて、中国の人の物事に対する決断の早さや「まずはやってみる」という姿勢に驚きました。そうした姿勢を、世界で活躍するために必要なものとして生徒たちに学ばせたいと思うようになりました。中国のベンチャー企業の経営戦略を日本に導入した場合のメリットとデメリットを考えさせるといった学習は、グローバルに活躍できる起業家精神を持った人材の育成につながると思います。

### ●審査員の講評

「文章が読みやすく、オリジナリティーがある」ことに加え、「現地の良いところを学ぼうとする姿勢」や「父兄へのアンケート調査を教材にうまく活用している」点が評価され、優秀賞を受賞されました。





新留 崇夫氏  
鹿児島県  
鹿屋市立鹿屋女子高等学校教諭

**受賞作品**

金融教育を活用した商業教育カリキュラムの開発  
金融教育の実践と新学習指導要領（平成30年告示）への対応

**作品概要**

資格取得に重点を置く従来の商業教育では、経済や金融の知識が定着しづらいと認識。新学習指導要領の施行に向けて、キャリア教育の推進、指導と評価が一体化した学習評価の充実、地域資源の活用の三つの柱を意識した指導計画を作成した。2022年度からの実践を予定している。

**資質と能力を定義して汎用性の高い指導計画に**

商業高校における金融教育実践の考え方や方向

性を評価していただき、これからの実践に向けて自信となりました。

近年、商業教育は資格指導に傾倒したため、生徒たちの経済や金融の知識不足を招きました。商業教育で得た知識や技能を自ら活用する能力の育成が課題となっています。そうした中、新学習指導要領では、生きるために備えるべき「資質・能力」を育むことが求められています。本校では、金融教育の観点を取り入れ、どういう「資質・能力」を育むかを定義し、他校でも活用できる商業教育カリキュラムを開発しました。

**● 審査員の講評**

「ほかの学校や地区でやろうとした場合でもできる実践」であることに加え、「資料が豊富でカリキュラムの中身がよく見える」、「非常に綿密に指導計画を作っている」点が評価され、優秀賞を受賞されました。



山本 銀兵氏  
沖縄県  
竹富町立波照間小中学校教諭

**受賞作品**

生活科を中心とした小学1年生からはじめる金融教育の提案  
離島・へき地域の「ミニ二・三イ経済を活かして」

**作品概要**

小学校低学年の金融教育実践として、沖縄県波照間島の経済活動の中心となっている共同売店に着目。野菜を育てて販売する「生産と消費」という経済活動の一連の流れを、生活科や算数、特別活動などの指導過程に取り入れ、自分事として楽しく金融経済の学習に向き合える取組みを行った。

**自立&自律の力を得る小学校低学年の金融教育**

波照間島には義務教育を終えた生徒の進学・就

職先がなく、15歳で親元を離れていきます。そのため、小中学生の間に子どもたちに「自立と自律」の力を身に付けさせる必要があります。小学校低学年から充実した金融教育が重要と考えていました。今回の実践では、子どもたちが栽培したきゅうりを共同売店へ出品し、売上計算まで自分たちで行いました。そうした子どもたちの姿から、責任を持つお金と向き合い、管理する能力の芽生えを感じました。

子どもたちは、より複雑化・高度化する金融経済社会を生き抜いていかなければなりません。日ごろの授業や子どもたちの会話の中にも金融教育のエッセンスを取り入れ、子どもたちとともに金融経済を学んでいきたいと思っています。

**● 審査員の講評**

楽しく学ぶことをめざした取組みは、「授業の姿がありありと伝わってきた」ことに加え、「コミュニティの関わりがよく見える」、「厳しい条件を克服している」点が評価され、優秀賞を受賞されました。

**奨励賞 受賞者&作品(敬称略)**

■SDGs時代に生きる主体的な消費者の育成  
総合的な探求の時間等を活用した実践報告  
佐藤 聖美 (群馬県 群馬県立前橋清陵高等学校 教諭)

久保 敏 (群馬県 群馬県金融広報委員会金融広報アドバイザー)

■部活動を通じた消費者教育の可能性  
高校生による中学生のための成年年齢引き下げトラブル未然防止啓発ポスター作成  
石田 実里 (埼玉県 埼玉県立三郷北高等学校教諭)

■新しい生活様式における特別支援学級で行う生きる力を育むお金の学習に関する教育的効果について  
藤田 道子 (愛知県 一宮市立千秋小学校特別支援学級担任)

■学校・企業・地域の共同取組みによる地域活性化の模索  
地元加太の魅力や改善点を通して  
寺迫 南海 (和歌山県 明治安田生命保険相互会 社和歌山支社)  
神崎 信彦 (和歌山県 和歌山市立加太中学校 校長)

今回の「第19回 金融教育に関する実践報告コンクール」は、2022年6月ごろ募集開始予定です。